SC-IB Newsletter

ボーイスカウト茨城県連盟情報
2019.04　No.19



http://www.scout-ib.net/

◘ 橋本千代寿 長老 逝く



橋本千代寿長老が亡くなりました。

数え 99 歳、白寿を迎えられる年でした。大変残念です。長老は、日頃から「俺は百歳まで生きるぞ！」とおっしゃられていたことが今でも耳に残っています。親しみのある独特な言い回しで私たちにお話いただき、そして、ご指導いただいたことがつい昨日のように思い出されます。

長老は、佐野珖治 初代理事長の言葉に感銘を受け、県連盟創立前の昭和 24 年、土浦第一隊の隊付として、ボーイスカウト活動に足を踏み入れました。翌、昭和 25 年には土浦第二隊の隊長に就任し、土浦地区でスカウトの指導に携わりました。昭和 36 年には、石岡地区にボーイスカウト発団の機運が持ち上がり、石岡第一団の発団に尽力し、少年隊（BS 隊）、年長隊（VS 隊）の隊長を歴任しました。昭和 43 年からは、団委員として団の運営に携わり、石岡第一団の隆盛をもたらしました。

一方、県連盟におきましては、昭和 38 年に理事に就任した後、昭和 42 年には県コミッショナーに就任し、教育面から県連盟の強化を図られました。また、昭和 53 年からは、副理事長、理事長、副連盟長を歴任され、県連盟の運営面からも大いに力を発揮され、平成 24 年に長老に就任されてからは大所高所から私たちを導いていただきました。

更に、長老は昭和 47 年に発足したボーイスカウト茨城県連盟維持財団の理事、常務理事、副理事長を歴任し、財政面からも県連盟を支援していただきました。

先日、ご自宅を訪問して、ご家族の方にお話をお伺いしましたが、長老の長い人生の大部分は、ボーイスカウト活動であったと話されておりました。また、送り出すときにはボーイスカウトの制服を着せたともお話しされておりました。

県連盟の創立から現在まで、生き字引的な存在で在り続けられた長老を失ったことはたいへん残念なことであります。

ここに、心よりのご冥福をお祈りすると共に、永年のボーイスカウト活動に対する感謝の心を伝えたいと考えます。

長老、安らかにお眠りください。

※長老とは

「長老」とは、県連盟から「長年に亘り本県連盟の運営･指導に携わり、その功績が大であり、その経験から指導助言を行いうる者」に授与されたれた称号です。



◆ 橋本長老・山田連盟長を偲ぶ会

平成 31 年 3 月 10 日（日）、茨城県立歴史館講堂において、橋本千代壽長老、山田隆士連盟長を偲ぶ会が催されました。

偲ぶ会は、橋本家、山田家をお招きし、県内のスカウト・指導者の代表、ボーイスカウト日本連盟、関東ブロックの各県県連盟の代表の方々、ボーイスカウト振興茨城議員連盟、ボーイスカウト茨城県連盟維持財団等から参列をいただき厳かに行われました。

● 關名誉顧問のお言葉

橋本千代壽長老、山田隆士連盟長、茨城県連盟発展のためお二人が長年に亘り御尽力されたことに関し、前連盟長としてまず感謝を捧げたいと思います。この運動の指導者として基礎を築かれた、佐野常羽（つねは）翁の言葉に、実践躬行、精究教理、道心堅固と言ういわゆる「清規三事（しんぎさんじ）」があります。「まずやってみて、反省・研究を致し、そしてこの道への情熱は揺るぎがない」、という教えであります。正しくご両名はこのことを長年実践されてきたと私は確信



しております。聞くところによりますと、橋本長老は長年に亘って日本連盟に地元の果樹を贈り続けられたそうです。その意味を「自分の生きている証だ」とご本人は言われていたそうです。また山田連盟長は私が後継者として連盟長に就任していただいたと言う経緯があり、残念でなりません。これからという 74 才の若さでお亡くなりになられましたが、貴方が本運動に今まで注がれてきたこの情熱は、きっとスカウト、指導者 1 人 1 人の心に根付かれていると思います。創始者ベーデン - パウエル卿は「スカウトに愛される指導者が真の指導者だ」と言われておりますが、まさしく正しくお二人は真の指導者であります。

さて、感謝の英語は THANK YOU ですが、この意味の語源は、「THINK」つまり「思う」と同じだそうで、「あなたからのご恩は忘れませんよ」という意味が含まれているそうです。

その意味も含め、今迄ご両名が茨城県連盟で歩まれた軌跡に対し感謝し、そしてその軌跡を我々は永遠に続くよう情熱を持って歩んで行きたいと思います。

最後にお二人に対し、大いなる感謝と弥栄を贈り、感謝の言葉と致します。

偲　ぶ　会　次　第

1　開式の辞
2　連盟歌斉唱
3　故人のスカウティングの軌跡
4　来賓あいさつ
　　茨城県知事・名誉連盟長　大井川 和彦　様
5　故人の茨城県連盟に残したもの
　　日本ボーイスカウト茨城県連盟 理事長　八木 雄二
6　感謝の言葉
　　ボーイスカウト振興茨城議員連盟 会　長　小川 一成　様
　　日本ボーイスカウト茨城県連盟 名誉顧問　關　正夫
　　ボーイスカウト茨城県連盟維持財団 理事長　　小林 大次郎
7　キャンドルセレモニー
8　来賓紹介、弔電披露
9　故人の思い出
　　日本ボーイスカウト群馬県連盟 副連盟長　新藤 信夫　様
10　スカウト代表　感謝の言葉
11　弥栄
12　閉会の辞

● 維持財団　小林理事長のお言葉

本日橋本千代壽長老並びに山田連盟長を偲ぶ会が開催されるにあたり、一般財団法人ボーイスカウト茨城県連盟維持財団理事長として、ご両名に感謝の意を述べさせて頂きます。

本維持財団の前身である財団法人ボーイスカウト茨城県連盟維持財団は財政的援助を目的として昭和 55 年 9 月に財団設立発起人会を開催し、翌昭和 56 年 12 月 16 日に認可を受け設立致しました。この年は県連盟創立 30 周年記念の良き年でもありました。この設立に当たりましては、昭和 47 年から構想がありましたが、財団基金として 2000 万円を目標に苦節 10 年の年月を掛け、発起人 29 名による募金活動等、全県連盟を上げて 初代理事長垉 晴行氏のもと設立されたものです。ご両名は発起人のメンバーとして幾多の御尽力を頂きました。特に橋本長老は設立後常務理事として長年ご努力頂きました。そして財団法の改正で現在の一般財団に改組致しました。平成 3 年には前連盟長の関正夫名誉顧問より毎年 200 万円を 10 年以上ご寄付されるという申し出があり、現在に至っております。

昨年山田連盟長のご就任以来、財団と連盟が情報交換を密にし、スカウト・指導者の為頑張って行こうと思っていた矢先だけに残念でなりません。今後は 3 年後の 2021 年が県連盟創立 70 周年ですので、連盟と手を取り合って頑張って行く事がご両名への恩返しと思います。橋本千代壽長老、山田隆士連盟長本当に財団発展の為ご尽力頂き、誠にありがとうございました。



偲ぶ会の運営・進行の各場面でベンチャースカウト、ローバースカウトが力を注いでくれました。同じく奉仕いただきました指導者の皆様、感謝申し上げます。

● 八木理事長の送る言葉

この世のスカウトに、命捧げてつかえなば、死して後もスカウトだ、これは「永遠のスカウト」というスカウトソングの歌詞です。創始者ベーデン - パウエル卿が尊敬するキッチナー元帥の言葉、Once a Scout Always a Scout から由来しています。

お二人は正しくこの言葉がぴったりで、きっと今頃、天国で諸先輩方とスカウティングを行なっていると思います。お二人は県連盟コミッショナーとして、又県連盟理事長として、茨城県連盟に多大なる功績を残してくれました。

橋本千代壽長老は戦前から本運動の指導者として参加、昭和 16 年には地方実修所を修了し、1951 年の我が県連結成時から今日迄本当に長年に亘り我々を導いて頂きました。2013 年の 23WSJ では 93 歳のご高齢にもかかわらず、山口迄行かれ、参加スカウト・指導者の為、塩飴を持参され配られておりました姿は、正しく本運動の指導者でありました。

一方山田隆士連盟長は早くから茨城県連盟のエリートとして期待され、土浦 1 中の 3 年生の時には、フィリピンで開催された第 10 回世界ジャンボリーに参加、又日本で開催された最初の第 13 回世界ジャンボリーには隊長として奉仕し、台風の中無事スカウトを避難させると、自らサイトに戻り暴風の中サイトの整備、又借用してきた市の無形文化財の獅子頭を必死に守った事が今でも言い伝えられております。指導者はこうあるべきだ、という後ろ姿をスカウトに身をもって示されておりました。

先程ご紹介がありましたが、ご両名は茨城県連盟だけではなく、日本連盟の評議員や中央審議会議員、又各種委員を歴任され、長年に亘って我々にスカウティングと言う「光の路」を導かれていただききましたことをここに深く感謝し、お二人への言葉と致します。















◆ セーフ・フロム・ハームへの取り組み

1. 心を育む教育とは

「子どもたちには思いやりの心を持った人になってほしい！」
多くの保護者がわが子にそう願っていると思います。

- 思いやりとは、優しさであって、
- 思いやりとは、他人の立場になって考える心であって、
- 思いやりとは、他人を大事にする心です。
- 思いやりの心は、人が共存していく上でとても大切なことです。

では、スカウト活動において思いやりの心はどのようにして培われていくのでしょうか？

● 共感から得る思いやりの心

思いやりの心を育てる一番大事なことは「共感」です。スカウトと気持ちを共感することが指導者への大きな信頼につながります。

例えば、やんちゃなカブスカウトが、周りの友達を傷つける行為や、何かしら悪いことをしたときに、指導者が頭ごなしに叱るとどうなるでしょうか？

きっとそのスカウトは、自分の気持ちを分かってもらえず、否定されただけと捉えて、心を閉ざしてしまうことになるかもしれません。

粗野な態度にもどういう経緯でそうなったのかを紐解いて聞いていくと、そこにはいろんな感情があるのです。その細かい感情に共感しながら、「～されたからこうなったんだね。」「～だからこう思ってやったのね。」と寄り添い、その時の気持ちを汲み取ってから、こういうところが間違っているんだよと教え知らせてあげましょう。

子どもは気持ちを共感してくれたことで、自分の行いを反省し、いけなかったことにも冷静に聞き入れようとします。

気持ちを共感してもらう事は自分を理解してくれているという認識でもあるのです。

● 大人が人や物を大事にする姿勢から思いやりの心を見せる

スカウトは指導者の行動を一部始終よく見ています。

例えば扉を足で閉めたり、物をポイッと投げたり、乱雑に使っていたり・・・と。同じことをして注意されても「隊長もやってたから。」と言われるでしょう。

普段から家族間での会話のやり取り、そして、祖父母を大事にされている家族なら、子どもも親や年配の方々を大事にするのです。

また、スカウトは人だけでなく、動物、食べ物、草花、すべてのものに「感謝」の気持ちを持つことを伝えることも大切です。モノが溢れ、蛇口をひねれば水がいくらでも出る現代だからこそ、モノに対するありがたみを感じにくくなっています。「いただきます」「ごちそうさま」の意味を知り、食事に感謝しましょう。動物を大切にしましょう。ものを大切にすれば、他人の大切なものや、他人の気持ちも大切にするようになります。

● 思いやりとは相手の気持ちを一緒に考えること

人を思いやるには、「相手がどのような気持ちか」を考える力、共感できる力が必要です。しかし、ビーバースカウトやカブスカウトにとっては、まだまだ自分以外の他人の気持ちは簡単に理解できるものではないため、活動を通じて指導者や保護者が少しずつ教えてあげることが大切です。



まずは活動の中で、自分の気持ちを客観視できるような声かけをしましょう。「あのときはどんな気持ちだった？」「どうして譲ってあげられなかったのかな？」など、そう振り返りです。

そして、他者の気持ちを想像させましょう。「あの子はどんな気持ちだったと思う？」「こんなことを言われてあの子はどう思ったかな？」など、こうしたコミュニケーションが、相手の気持ちを感じとる練習になります。

● 思いやりの心は深い愛情から培われる

思いやりの心を育てるというのは、子どもの気持ちを理解し、共感することで信頼ができ、自分のことを知ってくれているという愛情を感じます。愛されているという認識は、自分も相手のことを大事にしようとする気持ちにつながっていくのです。思いやりの心は、仲間同士の関わり方、つまり大きな愛情といえます。

たくさんのスカウト達と活動をしている指導者の皆さんはどれぐらいスカウト達の気持ちを把握しているのか、これはとても重要なことです。

たくさんのアンテナを拡げてスカウト達たちを成長させてください。



2. スカウトたちの笑顔のために

スカウトたちがいつも笑顔で活動できる様に、安全で安心な環境作りは大切です。

指導者として、いつもスカウトたちの様子を見守り、心の変化に気づき対応できる心構えを持ちたいものです。

例えば、集会の朝、隊長（指導者）はスカウト全員一人一人の顔をみてその日の様子を感じていますか。

笑顔のスカウトに、

「今日何か嬉しいことがあるのかな、お母さんにほめられたのかな」

暗い顔のスカウトに、

「どこか具合が悪いのかな、昨夜は十分睡眠はとれたのかな、あるいはお家のことで何かあったのかな」

いつもと違って目を逸らしてしまうスカウトに、

「何かあったのかな、いつもと違うな」と一人一人の様子をよくみましょう。

「いつもと違う様子」は時にスカウトがＳＯＳのサインを出していることがあります。

小さな心遣い、思いやりの心を持っていつもスカウトたちの笑顔を見ていたいものです。

ヒント：スカウトに「走るな」ではなく「歩こう」と声がけをしてください。

3. より深い理解のために

●登録前研修

全ての指導者は毎年、加盟登録のため登録前研修が必須となります。

○**対象者**：隊指導者や団委員、育成会員、役員等の全ての指導者、副長補等を従登録しているローバースカウト

○**受講方法**：登録前研修は下記の２つの方法で実施できます。

ｏｅラーニング

基本的にはこの方法で実施となります。受講修了後に修了証（ＰＤＦ）が発行され、団所属の指導者等は、各団委員長へ報告・提出します。

ｏテキスト版

オンラインで受講できない方にはテキスト版の用意があります。インターネットに詳しい団関係者にご協力いただき、ダウンロードのうえ、研修を実施します。実施後、団所属の指導者等は、同意書を各団委員長に提出します。

○<u>この修了証・同意書の提出がない場合は、登録審査によって登録者リストから外され、登録はできません。</u>

●セーフ・フロム・ハーム・セミナー

茨城県連盟では、セーフ・フロム・ハームに対する理解を深めるための第１ステップとしての基本となるセミナー「セーフ・フロム・ハーム・セミナー」を、平成 28 年度から実施しています。

○**対象者**：全ての指導者（隊指導者や団委員、育成会員、役員等）、ローバースカウト、保護者

○**受講方法**：登録前研修は下記の２つの方法で実施できます。

①「セーフ・フロム・ハーム」の意味や意義、さまざまなハームについて知る。

② 指導者としてのルールやマナーを理解する。

③「セーフ・フロム・ハーム」に抵触する問題が発生した場合の対応方法の基本を理解する。

④「セーフ・フロム・ハーム」の本連盟相談窓口が設置されたことを知る。

●セーフ・フロム・ハームへの今後の取り組み

近年、ニュース等の報道において、いじめ、虐待、無視、わいせつ行為などの見聞きする機会が増えています。

私たち指導者は、この運動に入る際には自らの名誉にかけて「ちかい」をたてています。それ故に「ハームはあり得ない」という自負と意識を持っていて、言



葉はよくありませんが「他人事」と思いがちです。

しかし、「ちかい」意味を理解せずに、単なる「言葉」と捉えてこの運動に入っている指導者もいないとは言い切れません。さびしいことですが性善説だけではこの運動を守り、続けていくことは難しくなってきています。

そのため、この「セーフ・フロム・ハーム」の**「ハームを、絶対に、しない！　させない！　起こさない！」**という考えが導入され、第１ステップとして「しない！」という見地からセミナー行ってきました。

今後は、第２ステップとして「ハームを絶対させない！　起こさない！」という予防・防止、排除と具体的な仕組みを作りに関するセミナーや施策を実施することで、各団隊の活動が安全・安心の環境であるよう保護者や地域からの信頼を確保するべく改めて整備・構築していくこと、そしてボーイスカウトが信頼に足る教育運動・団体であることを改めてアピールしていきます。皆様のご協力をよろしくお願い致します。



◆ 臨時団委員長研修

平成 30 年 4 月 13 日に、臨時の団委員長研修が開催され、各団の団委員長（団委員長が出席できない場合は副団委員長）が、県青少年会館に参集しました。

これは、他県において、セーフ・フロム・ハームに反する深刻な内容の行動が発生したためで、その内容を理解し、こうした問題の発生を未然に防止するために、その内容を各団に徹底するためのものです。

参加者は、セーフ・フロム・ハームについて、再度確認し、指導者としての行動規範、指導者バディルール等についての説明を受けました。

それを各団に持ち帰り、団の全ての指導者に周知徹底することで、茨城県連の全ての指導者が、「ちかい」と「おきて」を遵守する意識と姿勢と態度と、スカウト精神を身に付けていくことを明確にするべく取り組むことになりました。

指導者バディルール

安全で安心できるスカウト活動のために、指導者は複数人で活動を行います。

1. スカウト活動、あるいは活動外においても スカウトと指導者が一対一にならないようにします 。
2. 集会の集合時においては、二人以上の指導者が事前に集合場所にいるようにし、スカウトと指導者が一対一にならないようにします。
3. キャンプや舎営の折、スカウト就寝時の点検については、必ず、二人以上で行います。
4. オンライン通信（ＳＮＳ）、ソーシャルメディアなどについては、他の指導者または保護者も登録されている中で利用します。

◆ 団委員研修所 関東第 22 期

平成も最後の、4月28日から30日にかけて、日本連盟高萩スカウトフィールドにおいて、団委員研修所関東第 22 期が開催されました。

福島、群馬、埼玉、そして茨城から 12 名の団委員や指導者が参加され、如何に団を活性化したら良いのかの下、団運営の基本を理解し、問題点を挙げ、その原因の追及し、改善策を求め、また地域社会に理解され、より良き関係を作り上げるとともに、スカウトを育成する良き環境を作り上げるためには、何をすべきかを明確にしていきました。

昨年から、日本連盟から団の診断結果が提示されています。団のスカウト数によってS・A・B・C・Dにカテゴリーに分けられ、

カテゴリーS　団スカウト数100人以上
カテゴリーA　団スカウト数65～99人
カテゴリーB　団スカウト数40～64人
カテゴリーC　団スカウト数20～39人
カテゴリーD　団スカウト数19人以下

となっています。

このカテゴリー分けを行う意味は、ランク付けではなく、団の規模を考慮した支援策の構築のためですが、カテゴリー B までが、日本連盟が提供しているプログラムを効果的に実施展開できる複数の班・組がある団で、茨城では 42 こ団のうち、9 こ団（21%）しかありません。カテゴリー C は「少人数団」、カテゴリー D は「隊の編成が困難な団」となっており、C+D で 33 こ団（79%）と大半は占めています。つまりこの運動が求めている、自治的少人数の班同士の競い合いのプログラムが展開できていないわけです。この団診断は、過去 5 年にわたって行われた結果ですので、もし、C+D の団がそのままのカテゴリーであったなら、団の運営を真剣に考え、何らかの策を講じていたとしても、残念ながらその結果は出ていないということになります。

この団運営研修所は、スカウト数が少ないという問題を解決する場所ではありませんが、団運営の基本とその方法をきちんと学ぶことで、団の人数という現象と原因、そして対応と対策に繋がっていくのです。その基本があって、初めてコミッショナーによる支援が効果的に現れてくるのです。

また、ボーイスカウト運動を展開していくためには、知的との協力関係（連携）が大切になります。今回、この団研の期間中に、高萩スカウトフィールドでは、高萩市主催の「口笛コンサート」がアリーナで開催されました。そのコンサートに招待されたのです。折しも、地域との連携の在り方を考えるセッションのまさに実習ということで、よろこんで観覧させていただきました。とても良いコンサートだったので、一生懸命に盛り上げました。盛り上げることがどんな効果を生んでいくのか、団研参加者たちも理解・体感したことでしょう。

今回の研修では、定例のセッションの他に、特別セッションを２つ設けました。ひとつは、今話題となっている「セーフ・フロム・ハーム」で、指導者の行動指針、バディルールについて理解を深めました、もうひとつは「STOP スカウト減少!」で、新規加盟員の獲得と中途退団抑止するための原因を探り、その解決の糸口を見つけて、団の運営に役立てようというものです。

「STOP スカウト減少!」では、「指導者への不満」「組織への失望感」について、「現象」「問題点」「対策」「実行案」 の４ステップをブレストで挙げていくことで、これまでのセッションの総まとめとしました。



●（参加者レポート）

団委員長を誘って一緒に参加する予定でしたが、みごとに振られて１人で参加しました。

団運営の研修ということで、隊指導者である私にはあまり縁が無いのかなと思ってモチベーションはあがってはいませんでしたが、実際にセッションを受けてみると、指導者歴は 20 数年であっても、知らないことが山ほどありましたし、また、これまで疑問に思っていたコトや疑問にすら思っていなかったコトが、ガチャンガチャンと音を立てて繋がっていったのです。

日連の定型訓練ですから、専門的に突っ込んだ内容ではなくて総ざらい的な一般論でセッションは進行してはいましたが、講師のちょっとした問いかけから、連鎖的に多くの気づきが生まれ、それを班の仲間とのグループワークで、さらに大きく膨らませることができました。

「コンビニの飲み物の棚に置かれているコーヒー」の話は目からウロコでした。私たちが常日頃議論しているのは「コーヒーの味」。一般の人の購買意欲を湧かせるのは「コーヒーのパッケージデザイン」。飲みたくなるデザインをどうやって作って中味に繋げるかが大切だと・・・。



それから、セッション中に「口笛コンサート」に参加しました。リフレッシュの意味合いで配慮してくれたのかなと思いましたが、それは実習だったのです。参加して、地域との関わり方をガッテンすることができました。いろいろな意味で、今まで感じたことのない、エポックメイキングな研修となりました。

セッションで得られたヒントを実行することで、D ランクを脱出できる気がします。いや、必ず脱して、C ランク、いや B ランクに返り咲くぞーっ!!

P.S. 食事とても美味しかったです。ありがとうございました。（T）

◆ 上級研修修了おめでとう



水戸第４団　藤田　秀一 さん

ウッドバッジ実修所ベンチャースカウト課程第 29 期修了

（平成 30 年 10 月 26 日付）



水戸第４団　吉川　勲 さん

団委員実修所第 19 期修了

（平成 30 年 11 月 30 日付）



阿見第１団　小峰　茂 さん

日本連盟副リーダートレーナーコース第 62 期修了（平成 31 年 1 月 25 日付）

SC-IB Newsletter

SC-IB（Scouting Ibaraki）Newsletter　2019 年４月号　通算 19 号

2019（平成 31）年４月発行

発行　日本ボーイスカウト茨城県連盟事務局

〒 310-0034　水戸市緑町 1-1-18　茨城県立青少年会館 3F

※ SC-IB Newsletter は、２～３ヶ月ごとに発行しています。

※ SCOUTING 茨城に掲載されている写真・文章等は著作権法等により保護されています。著作権者に無断の複写・転載は堅くお断りいたします。